【令和8年度　コミュニティ・スクール太宰府小学校　校長通信】 P No.17（R８.11.11）

# まほろば【校長室だより】

［文責］
校長　江口　尋信

## 第153回　運動会


ゴールをめざして全力で走る様子

１０月３１日（土）、晴天に恵まれ、「第１５３回　運動会」を開催することができました。５月末に比べて気温・湿度が低く、熱中症の心配はほとんどありませんでした。心配したことは、開催日の前週くらいからインフルエンザの感染が広がり始めたことです。ただ、近年のインフルエンザは季節を問わず流行しており、いつ開催したらよいのか、なかなか難しい問題です。当日、子どもたちにも話しましたが、心を一つにして集団行動をする姿、最後まで全力を出す姿、他のブロックにも温かい声援を送る姿に、子どもたちの成長を感じました。来賓の皆様、保護者の皆様、地域の皆様、早朝からの応援、ありがとうございました。

## 手塚治虫先生の母の教え

先日、漫画家　手塚治虫さんの自伝を読んでいると、次のようなエピソードが紹介されていました。

ある日、手塚少年は学校で漫画を描いているのを教師に見られて怒られます。母も学校に呼び出される騒ぎとなりましたが、帰宅後に母は「どんな漫画を描いていたのか見せてちょうだい」と言い、すべてのページを丁寧に読んだのだそうです。読み終えた母は、手塚少年に、「治ちゃん、この漫画はとてもおもしろい。お母さんはあなたの漫画の、世界で第１号のファンになりました。」と言ったのだそうです。当時、漫画は低俗である、暴力的で教育に有害であるという考え方が一般的で、叱られるとばかり思っていた手塚少年は、この母の言葉をずっと忘れなかったそうです。

偉大な漫画家　手塚治虫を生み出した最も大きな要因は本人の才能・努力でしょうが、お母様の関わり方も大きかったと思います。

わたしには、手塚治虫氏ほどのエピソードはありませんが、今でも忘れられないことが二つあります。一つは、小学６年生の頃、他の友だちが持っている、変速ギアが付いた自転車が欲しくて、母に何度もお願いをしたことがあります。すると、母は、「自分の自転車があるでしょう。人は人、あなたはあなた。それでも欲しいなら、お小遣いを貯めて自分の力で買いなさい。」という返事が返ってきました。いろいろ考えたわたしは、新聞配達をして自転車を買うことにしました。早起きが苦手だったため、新聞配達をわずか１年ほどで辞めましたが、自分で自転車を買うことができました。二つは、高校の時のことです。中学校まで剣道をしていたわたしが、ふとしたことがきっかけで、ラグビー部に入ることにしました。母は、このことについて何一つ聞きもしないし、何も言いませんでした。関心がないのだろうと思っていましたが、そんなある日、母がテレビでじっと大学ラグビーの試合を観ていたのです。これまで、テレビでスポーツの試合など観たことのない母が、真剣にラグビーの試合を観ていました。ルールなどわからなくても、わたしがやっていることを理解しようとしていたのだと思います。今振り返れば、母はわたしの自立を促すとともに、一歩離れたところからわたしのことを理解し見守ってくれていたように思います。懐かしい思い出です。